



「記憶のまち」～東日本大震災に思う～

東日本大震災では多くのまちが津波にのみこまれ、まちが培ってきたまちなみは跡形もなく流れ去って瓦礫だけが残りました。一日も早く復興が進むことを願ってやまないが、その場所に住んでいた住民の方の目に映る瓦礫の光景と、頭の中に浮かぶ彼らが暮らしたまちなみの光景との余りのギャップに復興をどうイメージしたらよいのか、彼らの胸中を察するに余りある。

被災地の今後の都市計画とまちづくりはどのようになるのだろうか。彼らの頭の中に浮かぶ「記憶の町」と「あたらしいまちづくり」とは重なるところがあるのか、それとも全く新しい町なのか。とても気になるところだ。防災という観点では新しい視点を持たざるを得ないだろうし、津波を避けた高台に住いが移動することは避けようがない。漁業などに関しては職住分離という案がもうすでにでている。ここら辺りのことは今後いろいろ話題になっていくことと思うが、気になるのは「記憶のまち」のことである。「記憶のまち」と「あたらしいまちづくり」が何

処かで重なって欲しい思うのは私だけだろうか。

「こんなまちの記憶は忘れちゃいたい」と思う方も中にはいるだろうが、報道されるアンケートからは多くの方が、住んでいた町での復興を望んでいることが読み取れる。

「記憶のまち」が大切だと思う理由はこんな風に考えられる。多くのひとは、そこで生まれ、育ち、仕事をして、家族がいて生活があり、まちに対して何らかの愛情を感じている。

また、「記憶のまち」はまちの歴史や個人の歴史が凝縮されているとも言える。写真のようなその一瞬の記憶とは違い、多くのシーンが重なり合い「記憶のまち」が形成される。そんな「記憶のまち」を住民同士が共有しているため、このことが住民同士のコミュニケーションの基礎になり、郷土愛、仲間意識や信頼感が生まれることになる。それに対して心機一転あたらしい町で生活をはじめるとするのは、過去からの決別を意味し、共有する「記憶のまち」を避けているとも言える。「あたらしいまち

づくり」に「記憶のまち」を活用することで、大震災で分断された住民の思いを未来につないでいくことができるのだと思う。

「滑川宿まちなみ保存と活用の会」の方々の努力下で滑川瀬羽町の「記憶のまち」は「現実のま

ち」として一軒そして一軒と息を吹き返そうとしている。「記憶のまち」を大切にすまちづくり、東日本大震災被災地での復興をこんな気持ちで見守りたいと思う。

賛助会員 丸谷芳正
(富山大学芸術文化学部教授)

「25年振りのナメリカワ生活」

滑川市は私のふるさとです。就職を機に神奈川県に移り住んでから、滑川で過ごした以上の歳月が流れました。毎年の帰省は欠かしたことはありませんが、道路の整備や郊外型店舗の進出や高齢化によって、かつての町中心部の活気が失われていく様子を寂しく感じていました。

2010(平成22)年4月より1年間休職し、実家のある滑川で生活を始めました。4月下旬の新聞で『滑川旧町部 宿場の町並みを守ろう』という見出しの記事を読み、歩いて10分ほどの海沿いの旧北陸街道沿いに、古い木造家屋を修復して保存・活用を目指す人々がいることを知り、数日後旧宮崎酒造の前まで足を運び、偶然にも中を見学させていただく機会を得ました。昔の姿に復原された正面玄関の奥には、酒造りの道具やタンク、3棟の大きな蔵、中庭の井戸、土間、座敷がそのまま残されており、すばらしい空間でした。

十代の頃から自転車で海沿いの町の細い路地を用もなく走るのが好きでこの瀬羽町付近も訪れていましたが、このような建物の存在を全く知らなかったことがショックでした。

その後、5月に「滑川宿まちなみ保存と活用の会」が設立され、その記念講演会に参加したことをきっかけに賛助会員に登録させてもらい、7月末の『ベトナムランタンまつり in なめりかわ』、2月の『瀬羽町、フラメンコ一夜』、『ひな祭り』などの行事にもお手伝いとして参加させていただきました。これらの活動を通じて、まちなみ保存と活用の会の方々が、古い建造物に新しい価値を与え、建物を通して人のつながりを作っているとしていらっしゃることがよく理解できました。

滑川に戻った春ごろは、25年も離れていたふるさとでどんなふうに住んでいくか迷いも

ありましたが、まちなみ保存と活用の会の方々との出会い、趣味の剣道を通じた滑川市剣道スポーツ少年団のみなさんとの出会い、近所のみなさんとの再会等、長い歳月を経て滑川の方々と新たなつながりができたことをたいへん嬉しく思い、感謝しております。

「滑川宿まちなみ保存と活用の会」を中心とした活動が、日々の生活に張りを与え、人々が集える場所がある、そんなまちづくりにつながっていくことを期待しています。

この4月に再び神奈川県に戻りましたが、ふるさとの町の元気な活動をこれからも応援していきたいと思います。人と人のつながりの大切さ。無理せずできることから行動することが長く続ける秘訣だということ。ここ(滑川)に住む人が楽しくなるまちづくりでなくてはならないということ。私が25年振りの滑川生活で学んだことです。

賛助会員 堀井 純子
(神奈川県在住)

「活動報告」

● 11月20日

「富山県いきいき文化財博士現地研修会」でまちなみ案内協力。

主催：富山県教育委員会

● 11月25日



滑川市立田中小学校4年生の授業で旧宮崎酒造とまちなみ案内。

● 12月3日

寺家小学校6年生の「総合の時間」に旧宮崎酒造を案内。

● 12月11日

他町の保存活動報告会(小森氏より)

● 12月16日

美容室「パ・ド・ドゥ」による着物撮影協力。

● 12月26日



「地産蕎麦粉で年越し蕎麦打ち会」にて会の活動紹介。

主催(株)まちづくり工房

● 2月12日

「瀬羽町、フラメンコ一夜」

後援・協力。主催(株)まちづくり工房



旧宮崎酒造のトオリニワにステージを設置し、男性バイレ（富山出身の踊り手。ルーツは橋場）の若手グループによるライブが開催され、雪の中130名余りの観客が情熱のフラメンコと地産のバイ貝、里芋、地酒など堪能した。

● 2月26日～3月6日

文化財で楽しむ「ひなまつり」を開催。



近隣の方々の協力で13組のお雛様や人形で飾り付けた。

「お琴コンサートとお話の会」と「読みきかせ会」も開催し、期間中500人以上の来場があった。

● 3月21日

富山県いきいき文化財博士冬季研修会で「まちなみ保存・活用とまちづくり」の発表を行った。

● 4月16・17日

旧宮崎酒造にて「骨董ふりま」を開催。5月より定期開催予定。

● 4月23日

新川県民カレッジ「ふるさと発見講座」にて旧宮崎酒造を案内。

● 4月27日

農商工連携促進塾のモデルツアー「なめりかわ美健美旬旅」に協力。県内から参加した約30名が旧宮崎酒造で、ホタルイカ料理の試食、まつりの花づくりを行い瀬羽町の魅力を再発見した。主催(株)浅野観光

● 5月3日～5日

旧宮崎酒造で近隣の方々の協力で6組の「5月人形」、6組の「こいのぼり」で飾り付け、期間中約200名の来場者があった。



ISO 9001 : 2000 認証取得
ISO 14001 : 2004 認証取得

みんなで進めようリサイクル

(株) 金山 産業

家屋解体工事 フリーダイヤル 0120-88-7530

事務所 〒938-0004 富山県滑川市並木74-1 TEL (076)475-7530 FAX (076)475-9184
http://www.kanayama-s.co.jp E-mail: info@kanayama-s.co.jp